

令和4年10月11日（火）

1 開会のあいさつ（委員長）

2 協議（司会：委員長）

(1) 1学期後半の学校の様子について

①校長からの説明 ※資料参照

②主な質問と意見

質問 ○体力向上のための取組として業間マラソンと縄跳び運動の奨励が挙げられているが、取組状況はどうか。

→1学期は行っていない。特に夏季は熱中症の心配がある。2学期は、陸上大会等に向けて業間マラソンに取り組んでいく。また、冬期間は縄跳びに運動にも取り組んでいく。

○避難訓練ではどのようなことを行っているのか。弾道ミサイルに対応した訓練も行っているのか。

→地震、火災、不審者対応の避難訓練を行っている。また、幼稚園と連携した引渡し訓練を行っている。弾道ミサイル対応の避難訓練については今後検討する。

○災害時に、学校が避難所となると思うが準備はしているのか。

→災害時に避難が長期化する場合は、学校が避難場所となるが、避難所の開設や運営は市が行う。

○幼稚園との連携はどのように行っているか。

→幼稚園ではアプローチプログラム、小学校ではスタートプログラムを作成し、スムーズに接続できるよう取り組んでいる。

意見 ○学校評価の指標が最大100%で示されているが、評価項目によっては期待以上の成果を挙げている場合もあると思う。その場合は、110%や120%など、100%よりも大きい数値で表すようにするとよいのではないか。

→検討する。

(2) グループ協議（熟議）

①話合いの進め方について（事務局）

②グループ毎の話合い

Aグループ

- ・テーマ 「生徒指導、特別活動、デジタルシチズンシップ教育等について」
- ・主な話題 コミュニケーション力の高まり、がまん強さ・認め合う心の育成
ゲームネット依存、体験活動の充実、ICT機器の活用等

Bグループ

- ・テーマ 「学力向上、国際キャリア学、栗原ふるさと学等について」
- ・主な話題 協働的な学習、保護者の協力、国際キャリア体験活動等

Cグループ

- ・テーマ 「体力向上、健康安全教育、特別支援教育等について」
- ・主な話題 体力向上に向けた日常的な取組、避難訓練、情報モラル教育等

4 閉会のあいさつ（副委員長）

一学期の学校経営を振り返って

■ 重点事項の取組状況

1 知的好奇心をくすぐる授業の充実について

(1) 学びに向かう力を土台とした確かな学力の育成

① 自主学習への取組について

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期が90%、後期が89%。

② AIドリル「navima」による個別最適化学習の推進

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は50%
→ 児童生徒の取組状況（実施問題数）について職員へ提示。
後期課程は、夏休み後に週3日間の持ち帰りを実施。
前期課程についての持ち帰りは秋休みから。

③ ICTの効果的な活用

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
→ 教員による活用は浸透してきている。
題材により児童生徒自身が活用する機会をつくっていく必要がある。

④ 放課後学習会等の学ぶ機会の設定

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期課程85%
→ 市の学び支援事業の活用や後期課程の子供が前期課程の子供に教える交流学習会を実施。

2 校内研究の充実

○ 小中連携での協働による授業づくり

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程90%、後期課程86%
→ 指導案の検討等協働で行われるようになってきた。研究授業に足を運ぶ教員を増やしたい。

3 国際キャリア学・栗原ふるさと学を中心とした特色ある学習活動の展開

① 社会に開かれた教育課程の推進

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期課程86%
→ 総合的な学習における「金成ふるさと学」や国際交流学習など、地域の教育力の活用が図られている。

② 地域を知り郷土愛を育む教育の推進

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期課程86%
→ 上に同じ。

③ SDGsを意識した活動の推進

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程67%、後期課程71%
→ 全校の児童生徒に「SDGsスタートブック」を配布。関連を意識して指導させる。

④ 世界への視野を広げる英語教育の充実

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程81%、後期課程93%
→ インタラックALT、JETのALTを活用して外国語学習、外国語活動を実施。

2 児童生徒の自己実現を図る生徒指導の推進について

(1) 志教育の推進

① 「かかわる」「もとめる」「はたす」を意識した活動の設定

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期課程93%
→ 志教育に位置付けられた教育活動はねらいにおいて3点を意識して明示している。

② コミュニケーション能力や情報活用能力の伸長

- ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期課程93%

→ 体験で終わらずまとめたことを発信できる活動にしていく。

(2) 生徒指導の充実

- ① 生徒指導の3機能を生かした指導
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程90%、後期は100%
- ② よりよい人間関係づくりによる居場所のある学級づくりの推進
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
 - QU調査の結果を受けて要支援群への対応を検討した。

(3) 特別活動の充実

- ① 自己肯定感を高め、成長を促す指導の工夫
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
 - 認め、励ます指導の継続。活動において達成感が得られるような支援を工夫する。
- ② 縦割り班の活用と活動の工夫による学年間の交流の推進
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程50%、後期は93%
 - 全校での運動会の実施。縦割り学習会、縦割りでの金成ソーランへの取組。

(4) デジタルシチズンシップの推進

- ① 情報リテラシー、情報モラル教育の実施
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は93%
 - 夏休み中に職員の研修会を実施。学級での実践を推進していく。
- ② 情報活用能力の育成
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は93%
 - 情報を読み取る、まとめた情報を活用して表現や発信する、情報の真偽を判断して選択できる力の育成を図りたい。

3 安全・安心が保障される教育活動の徹底について

(1) 体力の向上

- ① 体力運動能力調査の結果を生かした重点指導と指導の工夫
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程77%、後期は86%
 - 体育の授業において課題に対する年間を通しての訓練が必要。
- ② 業間でのマラソンや縄跳び運動の奨励
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程56%、後期は83%
 - 体育科での取組に期待。これが実現できる学校体制かも検討。
- ③ 個性と能力を伸ばす主体的な部活動の推進
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は86%
 - 「部活動ガイドライン」を遵守しながら、望ましい部活動の在り方を推進していく。

(2) 心と体、命を守る健康、食育教育や防災教育の推進

- ① 時機を捉えた避難訓練の実施
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は93%
 - 時期については良い。内容（訓練の方法等）について検討し、実効性のあるものにする。
- ② 幼保と連携した引き渡し訓練の実施
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程52%、後期は86%
 - 今年度は、同日に引き渡し訓練を実施。
- ③ 学校生活における教育相談体制の整備
 - ・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は93%

→ 担任、主任、養護教諭、SCなど相談窓口はたくさんあることを周知する。
三者面談、教育相談以外にも、気になる児童生徒への声掛けを行っていく。

④ 健康を大切に、習慣化を図る健康教育の推進

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
→ さらなる食育の推進を図る。

⑤ 食べる楽しさを通して学ぶ食育の推進

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は86%
→ 上に同じ。

(3) 特別支援教育の推進

① 困り感に応じた支援の充実

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程90%、後期は93%
→ 補助員の配置の外、副校長、教頭、特別支援学級担当などが支援に入っている。

② 支援をつなぎ成長を図る支援計画の活用

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
→ 家庭との連携を図り、将来を見据えた指導や支援の充実を図る。

4 開かれた学校づくりの推進について

○ 家庭・地域との連携

① 学校運営協議会による学校運営の推進

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は79%
→ 学校運営協議会の意義や役割について職員へ啓発を図る。

② 地域の教育力を生かした協働教育の推進

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は93%
→ 3の①と同じ。

③ HPや各種の便りによる教育活動の公開

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は79%
→ 発信の方法について工夫と検討を図る。

④ 保護者アンケートによる教育活動の評価

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程95%、後期は79%
→ 今後実施。

⑤ PTA活動との連携

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程100%、後期は86%
→ 運動会、金成小中祭において役員会で意見があったことを踏まえて改善を図りたい。

⑥ 幼保や高等学校との連携

・教員による自己評価では、「A、B」評価の割合は、前期課程90%、後期は79%
→ コロナの状況を踏まえながら連携を図っていく。

幼稚園との連携についてはスタートプログラムを意識していく。